

(前略)

その時、仁木義政が朝倉義景へ「家臣の真柄は大変な力持ちで、特に大太刀を使いこなすことで天下に知られています。この際、義昭公の前へ呼び出されるのがよいでしょう」と申したので、真柄父子と僧随伝が呼び出された。義昭公は彼らをご覧になり、「彼らの名は天下に知られている。この宴席では誰もが一芸を尽くした。お前達もその力を見せてみよ」と仰せになると、三人は「かしこまりました」と申し上げた。

まず太刀を取り寄せ、太郎太刀という大太刀を下僕八人で持ち出し、次郎太刀という大太刀を下僕六人で持ち出してきた。この太刀は大和の大掾包則、府中の千世鶴と藤島友重と柴原宗吉、敦賀の有国等という鍛冶達が相談して作り出した九尺五寸の大太刀で、柄も二尺にこしらえてあった。

(後略)